

子育て支援リーダー養成講座 第7回

講演「親と子の心をつなぐ子育て支援のあり方」

青木 紀久代 お茶の水女子大学大学院准教授

1. 子育て支援＝持続可能であること
家族支援のゴール＝生き生きと関わり合いながら育ちを実現・主体的な発達
2010年より子育て支援策転換→
子どもと子育て家族の主観的幸福感（ウェルビーイング）を高める
2. 子育て支援とさまざまな相談のかたち
(1) 医療・保健・福祉・心理の専門家・保育の専門家・子育て経験者等
子育て相談は複雑（親子がセットなため） 多くの専門家が携わる
地域で行おう！
日常の場所で、支援される人が互に支え合うと効果的
(2) 相談のための基礎知識
★アセスメント…相談内容や背景を知り、目標・予想される経過を見立てる
★治療構造…心と心のやりとりをするための安定した状況
★守秘義務…相談で知り得た秘密を守ること。
3. 子育て相談の多層性
子育て広場＝入り口（出入りの制約がない）
日常的構造から専門的構造へ、個別相談からグループカウンセリングへなど
相談内容の二重構造を確保し、“この人なら”という信頼関係を築く
（子育て広場には、狭くてもよいので小さなブースがあるとよい）
4. 関係性改善の援助の基本
(1) 家族の機能と関係性
心理・臨床的家族支援：親子・家族の関係性＝総合的なバランスに着目
見守る ↓ 関係性の動揺
臨床的介入 ↓ 関係性の阻害（1ヶ月以上問題が持続・発達に阻害のリスク）
緊急介入 ↓ 関係性の障害（3ヶ月以上問題が硬直化・発達に支障）
(2) 親子の関係性を改善する介入の基本
母・子のやりとりの中で、支援者は親子の関係性を把握する
子・支援者のやりとりから母親の表象に転移が起こることがある→改善へ
母・子・支援者の生きた介入を通して親子の関係性の改善を図る
介入の入り口（子どもの行動・自己表現、親の行動・自己表現、相互 etc）
(3) 親子の関係性を回復させるための援助過程
①小さなイライラが爆発②親子をつなぐ関わりを模索③すれ違いから出会い
＊子どもの気持ちを読み取り、応答する力を育てる＝メンタライゼーション
5. まとめ
★早期の親子の関係性に着目した支援は重要
★子どもの発達の節目に沿った長期的なフォロー（長い目で見守る姿勢）
★親の気持ちをつかむ
辛いものに辛いまま返さない 少し緩衝帯になる（ふにゃふにゃ）大丈夫よ
★支援者はチームで関わることを資源とする
サッと支援してサッと去る（さざ波作戦）

